

令和4年12月市議会定例会より

工藤市長の一般行政報告

11月25日から15日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、12月補正予算の審議などが行われました。
※全文は、市ホームページにも掲載しています。



なった交流ができたものと受け止めているところです。次に、枕崎市については、10月29日から11月1日の日程で、私が団長となり、稚内商工会議所会頭、稚内観光協会長などの関係者8人、一般公募の市民16人、市内の両高校から生徒と教諭合わせて8人、関係課など市職員6人の総勢38人で訪問しました。

の協力によって、勇知もを原材料に完成した本市の地酒、さらには、中学生による様々な交流などが続いています。今回の訪問に、今後、さらに幅広い交流の輪が広がることを期待したところです。

が、特に先月から小学生を中心に、子どもの感染が多く見られます。
教育委員会からの報告によると、10月中旬から11月にかけて、小中学生で200人以上の感染者が出ており、市内小中学校の延べ40以上のクラスで、学級閉鎖や学年閉鎖の措置が取られたほか、幼稚園や保育所でも同様の状態となっています。

ばならず、接種が可能な方から順次、案内をお送りしているところであり、60歳以上の方はあらかじめ日時を指定して、また、60歳未満の方には、ご自身で予約いただく形で進めているところです。

一時期、60歳未満の方が予約ができないという状況もありましたが、現在は枠を拡大して対応していますので、帰省あるいは大人数での飲食の機会などが多い、年末年始を迎えるにあたって、市民の皆さんには、積極的な接種の検討をお願いいたします。

また、市立稚内病院の入院者数は、11月24日現在2人であり、北海道全体や道北地域で病床使用率が高くなっている中、低い水準を維持することができています。

新たな開業医の誘致について

10月5日、「開業医誘致助成審査委員会」を開催し、市立稚内病院に勤務する藤井瑞恵医師の皮膚科開業に関する計画内容についてご審議いただき、助成などに関する手続きを進めることに同意をいただいたところです。

現在、藤井先生が申請に関する準備などを進められていると伺っていますが、「稚内市開業医誘致条例」による助成制度を活用した診療所の開設は、平成29年の「わかかない耳鼻咽喉科」以来、5年ぶり6例目となります。

皮膚科の専門医である藤井先生は、旭川医科大学病院などで経験を積まれた後、昨年10月から、市立稚内病院皮膚科医長として勤務される中で、本市を含む宗谷管内に皮膚科の診療所が無いことを知り、予約なしでも皮膚疾患に対する診療を受けられる環境を提供したいとの思いで、開業を決定されたと伺っています。
また開業後は、湿疹や带状疱疹など皮膚疾患の診療のほか、美容に関する皮膚診療の予定もあると伺って

沖縄県石垣市と鹿児島県枕崎市への市民訪問団の派遣について

本市と友好都市である沖縄県石垣市と鹿児島県枕崎市とは、友好都市の盟約を行ってから、今年は石垣市が35年、枕崎市が10年という節目を迎えたこともあり、それぞれに市民訪問団を派遣しました。

まず、石垣市には、11月4日から8日の日程で、副市長を団長として、世界平和の鐘の会北海道支部長を始めとした関係者6人、一般公募の市民12人、事務局として市職員3人の総勢21

人で訪問しました。

石垣市では、全島挙げてのお祭りである「島まつり」への参加や市内視察のほか、昨年建設された石垣市の新庁舎も視察したところです。特に今回の訪問では、双方にある「世界平和の鐘」の祈念鐘打や、沖縄本島の「沖縄県平和祈念資料館」の視察などに関する報告を受けましたが、あらためて子育て平和都市宣言の街として、今後も平和への取り組みを一層進めなければと、思いを新たにしたいところです。

なお、訪問期間中、市議会議員訪問団とも行動の重なる部分がありましたので、行政・議会・市民が一丸と



枕崎駅舎前で記念撮影する市民訪問団

枕崎市とは、これまでも行政のみならず、お互いの代表的な地場産品である「コンブ」と「カツオ」を活用して、様々な取り組みを考える「コンカッププロジェクト」や、枕崎市の薩摩酒造

今回の訪問を機に、両市とは、これからも一層の交流推進に努めることを確認し合いましたので、その成果を次の世代に引き継ぎ、それぞれのまちの発展を目指したいと考えています。

新型コロナウイルスの感染状況等について

新型コロナウイルスの感染者数については、9月から全数届出が見直されたことに伴い、正確な数値の把握は難しい状況にあります

今回の訪問を機に、両市とは、これからも一層の交流推進に努めることを確認し合いましたので、その成果を次の世代に引き継ぎ、それぞれのまちの発展を目指したいと考えています。

ワクチンを接種することにより、感染予防はもとより、感染した場合でも重症化しにくいという効果が期待されますので、冬休み期間に集団接種の機会を設けられるよう医師会との検討や周知の準備を進めているほか、12月から始まる生後6か月から4歳までのワクチン接種も含め、接種しやすい環境を整えていきます。

また、一般の方のオミクロン株対応ワクチンの接種については、前回の接種から一定の間隔を空けなければならず、接種が可能な方から順次、案内をお送りしているところであり、60歳以上の方はあらかじめ日時を指定して、また、60歳未満の方には、ご自身で予約いただく形で進めているところです。